

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

| | |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 事故・ヒヤリハットの別 | ヒヤリ |
| 2. 体験した事例の名称 | 強度のないトタン屋根上部でホース延長中、水が張られそうになった事例 |
| 3. 体験した事例の中心的要素 | 織物工場（木造 2/0）での建物火災活動において、強度のないトタン屋根上部でホース延長活動途中、放水長が放水命令を出していないのに、他隊の隊員が機関員に「放水始め」の指示をしてしまった。 |
| 4. 体験した事例の原因・理由 | 機関員との意思疎通が不足。他隊の隊員が状況確認を怠ったことによる勝手な判断。 |

【体験した事例の直接的原因について】

| | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 体験した事例の直接的な原因 | 情報入力に問題があった。行動の実行に問題があった。 |
|------------------|---------------------------|

【体験した事例について】

| | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. 発生日時 | 平成 16 年 8 月 3 日 午前 11 時頃 |
| 2. 発生した当時の天候 | 晴 |
| 3. 発生した活動現場 | |
| 4. 体験した事例の種類 | 他人が、回答者を負傷させた。 |
| 5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度） | 重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。 |
| 6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか) | 墜落・転落、崩壊・倒壊(に巻き込まれる)、 |
| 7. 事例体験時の活動 | 火災現場活動初期、 [木造建物] |
| 8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか | ホース延長、 |
| 9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。 | 初めて体験した。 |

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

| | |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| ○当事者 A | 年齢[21]歳、 勤続年数[3]年、 現場経験年数[3] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 []、 任務 [隊員] |
| ○当事者 B | 年齢[26]歳、 勤続年数[8]年、 現場経験年数[8]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 []、 任務 [隊員] |
| ○当事者 C | 年齢[40]歳、 勤続年数[18]年、 現場経験年数[14]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 []、 任務 [機関員] |
| その他 (当事者が 4 人以上の場合) | 他隊の隊員 (不明) |

1.1. 事例発生の経過。

| | 誰(何)が | なにをした | その他・備考など |
|-------|-------|--------------------------------|---------------------|
| 経過 1 | 隊員 B | 三連はしごを活用し、トタン屋根上へ進入し、ホース延長活動中 | |
| 経過 2 | 隊員 A | ホース延長を補助 | |
| 経過 3 | 他隊の隊員 | (放水準備ができていると思いまい、「放水始め」を機関員に報告 | |
| 経過 4 | 機関員 | 放水を始める | |
| 経過 5 | 隊員 A | 「放水始め」の声が聞こえたため隊員 B に報告 | 活動場所と機関員の場所が近かったため。 |
| 経過 6 | 隊員 B | 慌てて、機関員に放水を止めるよう指示 | |
| 経過 7 | 機関員 | 放水を停止 | |
| 経過 8 | | | |
| 経過 9 | | | |
| 経過 10 | | | |

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

集中力、注意力があった。周囲の視界が確保できていた。他隊(員)との連携活動がうまくいった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- | | |
|---------------------------------------|-----|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | はい |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 | いいえ |

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
 - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

c. 経験・知識が不足していた。

| | |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | いいえ |
| ・活動に対する経験が不足していた。 | いいえ |

d. 心身の不調があった

| | |
|-----------|-----|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

| | |
|---------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。 | いいえ |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | いいえ |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。 | いいえ |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |
| ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |

g. 行動しにくい環境だった。

| | |
|------------------|-----|
| ・狭隘な場所であった。 | はい |
| ・暑かった（寒かった）。 | はい |
| ・野次馬が多かった。 | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

| | |
|-------------------|----|
| ・足元が躊躇したり滑りやすかった。 | はい |
| ・足元の強度が不足していた。 | はい |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

| | |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。） | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあつた。 | はい |
| ・指示内容が実施困難であつた。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

| | |
|----------------|----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | はい |
| ・隊員が不足していた。 | はい |

○その他

l. その他の理由があつた。

| |
|------------------------------------------|
| はい：機関員が、他隊の隊員からの「放水はじめ」伝令を鵜呑みにして受けてしまった。 |
|------------------------------------------|

トタン屋根上部でホース延長活動中におけるヒヤリハット

